

B：宮城県コース

匿名希望

「現地を訪問して想うこと」

2011年3月11日、私は地元である熊本で祖母と一緒にデパートへ買い物に来ていました。東日本大震災が発生したその時も、地震の影響が全く無かった熊本で私は呑気に買い物を続けていました。デパートを出たところにある大型テレビジョンの前にたくさんの人だかりができていて、私は初めて異変に気付きました。嘘のような光景がテレビに映しだされていました。

その日から連日の報道、日に日に増える行方不明者や死者、そして福島原発の事故。同じ日本なのに、テレビの中の光景がどうしても受け入れられず、まるで遠い外国で起きたことのようにしか思えませんでした。その時の私にできたのはせいぜい募金をすること。「どうしよう。何かしなきゃ…」とってはいたものの、何も行動ができませんでした。今回、立命館大学からこのツアーの案内がきて、ずっと心残りだった私はすぐに参加を決めました。

南三陸町をバスで走って、窓から外の景色を眺めていると、そこに住宅街があったことが信じられないような光景が広がっていました。

防災対策庁舎の前でバスを降り、数分の時間をいただきました。

3階建ての庁舎は鉄筋があらわになっており、私はそこで改めて、この庁舎の全てを飲み込んでしまうほどの津波がきたのかととても恐ろしくなりました。何も言葉が出なくなりました。

「震災を忘れないでほしい。風化させないでほしい。そして現地で見たもの、感じたことをみなさんの地元に戻ってから周りの人に伝えて欲しい。」

このツアーで最も心に残っている言葉です。

防災対策庁舎の周りをぐるりと回ると花や雑草が生えていました。

時間は確実に経過しており、復興に向かって前進しています。

私にできることは小さいかもしれませんが、一日も早い復興のために、継続的な支援を私なりに行なっていきたいと思います。

2012年7月に九州北部豪雨が起り、私の地元熊本も甚大な被害を受けました。

その時に宮城や福島、岩手の方々からたくさんのご支援を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。